

## News Release

2017年9月5日

東急不動産株式会社  
三菱UFJリース株式会社  
日本グリーン電力開発株式会社

# 「(仮称)すずらん釧路町太陽光発電所」着工 ～北海道釧路町に国内最大級の蓄電池併設型 メガソーラー発電所を建設～

東急不動産株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：大隈 郁仁、以下「東急不動産」）と、三菱UFJリース株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：柳井 隆博、以下「三菱UFJリース」）、日本グリーン電力開発株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：君塚 元、以下「日本グリーン電力開発」）の3社は、北海道釧路郡釧路町において大規模太陽光発電所（メガソーラー発電所、以下「本発電所」）「(仮称)すずらん釧路町太陽光発電所」を建設し、発電事業を開始することをお知らせいたします。本発電所は、株式会社三菱東京UFJ銀行をアレンジャーとするシンジケートローンにより事業資金を調達し、2017年7月に着工、2019年度中の運転開始を目指します。

本発電所は、北海道釧路郡釧路町の約163.2万㎡（約163ha）の遊休地を活用し、出力規模が約92MW、年間予想発電量が一般家庭約21,300世帯分<sup>※</sup>の年間電力消費量に相当する約1億550万kWh/年の発電を行うメガソーラー発電所です。東急不動産、三菱UFJリース、日本グリーン電力開発が共同出資するSPCが事業主体となり、東急不動産の完全子会社である東急不動産キャピタル・マネジメント株式会社がアセット・マネジメント業務、三菱UFJリースの完全子会社であるMULエナジーインベストメント株式会社がフィナンシャルアドバイザー業務をそれぞれ受託します。

本発電所は、北海道電力株式会社が2015年4月に公表した「太陽光発電設備の出力変動緩和対策に関する技術要件<sup>※※</sup>」に基づき、蓄電容量約25,320kWh（約25MWh）の大容量リチウムイオン電池を備えており、蓄電池併設型の太陽光発電所としては出力規模が国内最大級の発電所です。また、無制限・無補償の出力抑制の対象となる太陽光発電事業へのプロジェクトファイナンス組成案件としても、国内最大規模となります。

東急不動産は、東急不動産ホールディングスグループが5月に発表した「中期経営計画 2017-2020」の成長戦略において掲げる「循環型再投資事業の領域拡大」の一環として、インフラ投資分野における新たな投資対象資産の拡大を目指すとともに、地域の発展と電力の安定供給を通じた社会貢献に尽力していきます。

三菱UFJリースは、環境・エネルギー事業を重点戦略分野と位置付け、環境関連設備のリースに加え、省エネルギー化を実現するESCO事業などの付加価値の高いサービスのほか、発電事業への出資参画へと事業領域を拡大しています。当社は今後も、環境・エネルギー分野における様々なお客様のニーズに応える取り組みを、積極的に推進していきます。

日本グリーン電力開発は、蓄電池付太陽光発電所の開発など信頼できる安定した競争力のある再生可能エネルギー発電事業を通じて、地球環境・地域経済活性化・地域雇用へ貢献していきます。

※ 釧路町の世帯数は2017年7月末現在 9,577 世帯。

※※ 北海道電力株式会社が太陽光発電事業者に求めている技術要件。太陽光発電設備に蓄電池などを併設して出力を制御することで、出力の急峻な変動緩和対策の導入を太陽光発電事業者に求めるもの。

■ (仮称) すずらん釧路町太陽光発電所の概要

所在地	北海道釧路郡釧路町字トリトウシ原野 74-10 他
敷地面積	約 163.2 万㎡ (約 163 ha)
出力規模 (太陽電池容量)	約 92,264kW (約 92MW)
蓄電容量	約 25,320kWh (約 25MWh)
年間予想発電量 (初年度)	約 1 億 550 万 kWh/年 (約 105,518MWh/年) 一般家庭約 21,300 世帯分の年間電力消費量に相当 ※1 世帯当たり 4,936kWh/年で算出 (太陽光発電協会 表示ガイドライン (2016 年度) より)
運転開始	2019 年度 (予定)
EPC 会社	富士電機株式会社
事業出資者	東急不動産、三菱 UFJ リース、日本グリーン電力開発